

# 平成20年度 建設副産物実態調査結果について (北陸地方版)

平成22年 3月31日  
北陸地方建設副産物対策連絡協議会

北陸地方建設副産物対策連絡協議会は、平成20年度に北陸地方の建設工事から排出された建設副産物<sup>注1)</sup>について、排出量、再資源化等の状況の調査結果をとりまとめましたので公表致します。

## 調査結果の概要

### 1. 排出量の動向

平成20年度の建設廃棄物の排出量は約370万ト、建設発生土の排出量は約812万m<sup>3</sup>となりました。前回調査(平成17年度)に比して、建設廃棄物で約20%減、建設発生土で約31%減となりました。

### 2. 再資源化等率の状況

建設汚泥(再資源化率<sup>注2)</sup>)、建設汚泥(再資源化等率<sup>注3)</sup>)、建設発生木材<sup>注4)</sup>(再資源化率)は増となりました。一方、アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊(再資源化率)、建設発生木材(再資源化等率)は減となりました。その結果、建設廃棄物全体の再資源化等率は減となりました。

	平成17年度	平成20年度	増減
アスファルト・コンクリート塊の再資源化率	98.6%	97.4%	1.2ポイント減
コンクリート塊の再資源化率	98.0%	97.7%	0.3ポイント減
建設発生木材の再資源化率	60.4%	73.3%	12.9ポイント増
建設発生木材の再資源化等率	92.7%	88.5%	4.2ポイント減
建設汚泥の再資源化率	43.6%	82.2%	38.6ポイント増
建設汚泥の再資源化等率	89.1%	93.9%	4.8ポイント増
建設混合廃棄物の排出量	9.5万トン	10.4万トン	0.9万トン増
建設廃棄物全体	95.7%	95.0%	0.7ポイント減
利用土砂の建設発生土利用率	78.6%	75.9%	2.7ポイント減

### 3. 「北陸地方建設リサイクル推進計画2008」の目標達成状況

建設発生木材(再資源化率)及び建設汚泥(再資源化等率)については平成22年度中間目標を達成しています。

	平成20年度 調査結果	平成22年度目標		平成24年度目標	
		平成20年度結 果との比較	中間目標値	平成20年度結 果との比較	目標値
アスファルト・コンクリート塊の再資源化率	97.4%		98%以上		98%以上
コンクリート塊の再資源化率	97.7%		98%以上		98%以上
建設発生木材の再資源化率	73.3%	達成	71%		75%
建設発生木材の再資源化等率	88.5%		95%以上		95%以上
建設汚泥の再資源化率	82.2%	—	—	—	—
建設汚泥の再資源化等率	93.9%	達成	93%		94%
建設混合廃棄物の排出量削減(H17比)	10.4万トン		25%削減		30%削減
建設廃棄物全体	95.0%		96%		96%
利用土砂の建設発生土利用率	75.9%		83%		85%

注1) 建設副産物 : 建設工事に伴って副次的に得られる物品であり、建設廃棄物(コンクリート塊、建設発生木材など)及び建設発生土(建設工事の際に搬出される土砂)の総称。

注2) 再資源化率 : 建設廃棄物として排出された量に対する、再資源化された量と工事間利用された量の合計の割合。

注3) 再資源化等率 : 建設廃棄物として排出された量に対する、再資源化及び縮減された量と工事間利用された量の合計の割合。  
なお、再資源化等とは、再資源化及び縮減のこと。

注4) 建設発生木材については、伐木材、除根材等を含む数値である。

配布場所  
新潟県政記者クラブ  
新潟県政記者クラブ  
富山県政記者クラブ  
石川県政記者クラブ

<問い合わせ先> 北陸地方建設副産物対策連絡協議会 事務局  
国土交通省 北陸地方整備局 企画部  
技術企画官 浅島 豊明(内線 3126)  
技術管理課長 高島 和夫(内線 3311)  
技術管理課長補佐 西田 一彦(内線 3315)  
TEL 025-280-8880(代)

表1. 建設廃棄物の排出状況

		場外排出量(万トン)			
			再資源化量	縮減量	最終処分量
H 1 7	アスファルト・コンクリート塊	179	177	0	3
	コンクリート塊	213	209	0	4
	建設発生木材	25	15	8	2
	建設汚泥	19	8	9	2
	建設混合廃棄物	9	2	2	6
	その他(金属くず、廃プラスチック類など)	14	11	1	2
	建設廃棄物全体	460	422	19	20
H 2 0	アスファルト・コンクリート塊	148	145	0	4
	コンクリート塊	168	164	0	4
	建設発生木材	20	15	3	2
	建設汚泥	18	15	2	1
	建設混合廃棄物	10	2	1	7
	その他(金属くず、廃プラスチック類など)	6	5	0	1
	建設廃棄物全体	370	345	7	19

注) 四捨五入の関係上、合計値とあわない場合がある。

表2. 建設発生土の排出状況及び土砂の利用状況

H 1 7	建設発生土の排出状況	場外排出量(万m <sup>3</sup> )					
		工事間利用	再資源化施設	海面処分場	内陸受入地		
		1,181	393	119	0	668	
H 1 7	土砂の利用状況	搬入土砂利用量(万m <sup>3</sup> )					現場内利用
		新材利用	建設発生土利用	土質改良土	汚泥処理土	再生砂	(万m <sup>3</sup> )
		899	379	393	119	4	4
H 2 0	建設発生土の排出状況	場外排出量(万m <sup>3</sup> )					
		工事間利用	再資源化施設	海面処分場	内陸受入地		
		812	250	76		486	
H 2 0	土砂の利用状況	搬入土砂利用量(万m <sup>3</sup> )					現場内利用
		新材利用	建設発生土利用	土質改良土	汚泥処理土	再生砂	(万m <sup>3</sup> )
		604	271	250	76	2	4

注) 四捨五入の関係上、合計値とあわない場合がある。